資料２

実証実験計画（案）

国土交通省 関東地方整備局

2021（令和3）年5月26日

○実証実験計画の期間

・計画期間は、2021（令和３）年度～2022（令和４）年度までとする。

○計画の見直し

・本計画は、検討会の議論等を踏まえて、適宜、柔軟に改訂を行う。

スーパー・メガリージョンの形成及び効果の広域的拡大の促進（概要）

国土交通省
関東地方整備局

国土交通省が推進しているスーパー・メガリージョン（ＳＭＲ）構想【令和元年５月とりまとめ】

- ◆ リニア中央新幹線が全線開通すると、品川～大阪間が67分（品川～名古屋間は40分）で行き来できるようになり、今まで以上に各都市間の結びつきが強まり、新たなライフスタイル・ビジネススタイルが生まれることも期待されています。
- ◆ リニア中央新幹線による劇的な時間短縮により、中間駅周辺地域では、大都市で働きながら自然豊かな地域で暮らしたり、新たな居住の選択肢を提供する地域に発展していくことが期待されています。
- ◆ 相模原市橋本に設置予定の中間駅「神奈川県駅（仮称）」は、首都圏の成長を牽引する産業交流拠点としての発展が期待されています。

期待される取組例

＜自然豊かな居住環境・多様なツーリズム・社会参画のプラットフォーム等の形成による地域独自の豊かなビジネス・ライフスタイルの実現＞

地域と大都市住民の交流促進／豊かな自然環境や景観等の持続／地域の強みを活かした新しい産業（価値）の創出　等

首都圏広域地方計画【平成２８年３月】

「ものづくり」のみならず、「もの」がもたらす様々なサービスを提供する「ことづくり」、さらには、フェアトレード※のように、消費行動に新しいライフスタイルや社会とのつながり・絆といった「ものがたり」という付加価値を生み出す「ものがたりづくり」等、クリエイティブな産業の振興が必須である。

クリエイティブな産業の振興の舞台には、
①世界中からクリエイティブな人材、知識、文化、芸術及び情報等を集め、
②集まった人材や知識等がメルティングポット（るつぼ）のように多種多様に交流、コラボレートすることによって、新たな価値やアイディアを創造し、
③国際的に情報を発信し、世界規模で伝播する、という3つの機能を果たすことが求められる。
世界規模、地球規模でこれら3つの機能を果たしているのがメガリージョンである。

フェアトレード：国際貿易の中で不利な立場に置かれた途上国の生産者と、先進国の消費者を結びつけることで、より公正な取引を促進し、途上国の生産者が貧困に打ち勝つための能力を身につけ、自らの状況を改善しより自立的な生活を営めるようにすることを目指した公正な貿易のあり方

■目次

国土交通省
関東地方整備局

1．実証実験の意義・目的・・・・・4

(1)意義・目的・・・・・4

(2)テレワーク及びワーケーションに関する整理・・・・・5

2．実証実験の概要・・・・・8

(1)実験期間・・・・・8

(2)実験対象エリア・・・・・8

(3)実験内容・・・・・10

3．実証実験の準備・実施・管理に向けた全体スケジュール・・・・・11

4．実証実験の内容・・・・・12

(1)都心企業・ワーカーに対する訴求ポイント・・・・・12

(2)提供するコンテンツとターゲット像のイメージ・・・・・15

(3)募集・受付・・・・・19

(4)活用施設の準備・・・・・25

(5)実施体制の構築・・・・・30

(6)プログラム、イベントの検討・・・・・34

(7)移動手段の検討・・・・・45

(8)効果検証・・・・・47

(9)検討会の流れ・・・・・48

1. 実証実験の意義・目的

（1）意義・目的

・スーパー・メガリージョン構想を踏まえ、大都市の利便性を享受する豊かで潤いのある生活や多様な働き方の実現、首都圏内のクリエイティブ人材やイノベーション人材との対流を促すための新たな場・仕組みの形成、多様な地域資源との交流による中間駅周辺地域への成長の機会創出等に資することを目的とする。

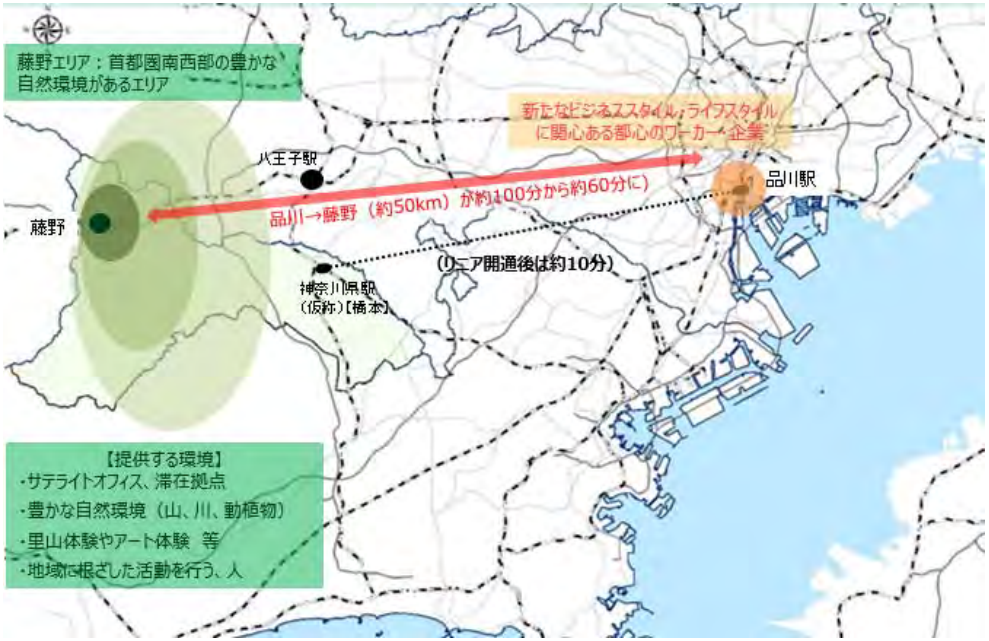
・この目的を達成するため、以下のとおり実証実験を行う。

○中間駅周辺（相模原市緑区藤野地区ほか）における新たなビジネススタイル・ライフスタイルの具体化に関する検証（成果・課題及び改善方策の把握）

・首都圏との対流を促すための新たな仕組み、場づくりに関する検証（成果・課題及び改善方策の把握）

・地域主体の持続的な取組に向けた成果・課題、方向性の把握

・他の中間駅周辺地域への展開を見据えた成果・課題の抽出



（２）テレワーク及びワーケーションに関する整理

１）テレワークとは

・ICT（情報通信技術）を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方（出典：総務省）
・情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと（出典：一般社団法人日本テレワーク協会）

２）テレワークの種類

区分	概要
在宅勤務	所属するオフィスに出勤しないで自宅を就業場所とする勤務形態
モバイルワーク	移動中（交通機関の車内など）や顧客先、カフェなどを就業場所とする働き方
サテライトオフィス勤務（専用型）	所属するオフィス以外の他のオフィスや遠隔勤務用の施設を就業場所とする働き方 （自社・自社グループ専用として利用され、従業員が営業活動で移動中、あるいは出張中などに立ち寄って就業できるオフィススペース）
サテライトオフィス勤務（共用型）	所属するオフィス以外の他のオフィスや遠隔勤務用の施設を就業場所とする働き方 （複数の企業がシェアして利用するオフィススペース）

※出典：多様な働き方に関する実態調査（テレワーク）／2019年3月／東京都産業労働局

3）ワーケーションとは

・ワーク（仕事）とバケーション（休暇）の造語で、長期滞在先でパソコンなどを使って仕事をすることを指す（出典：2018年国土交通白書）
・普段の「Work」に自然のなかでのアクティビティ体験といった「Vacation」をプラスする、遊ぶように働く新たなワークスタイルが「Workation」（出典：一般社団法人Workation Network）

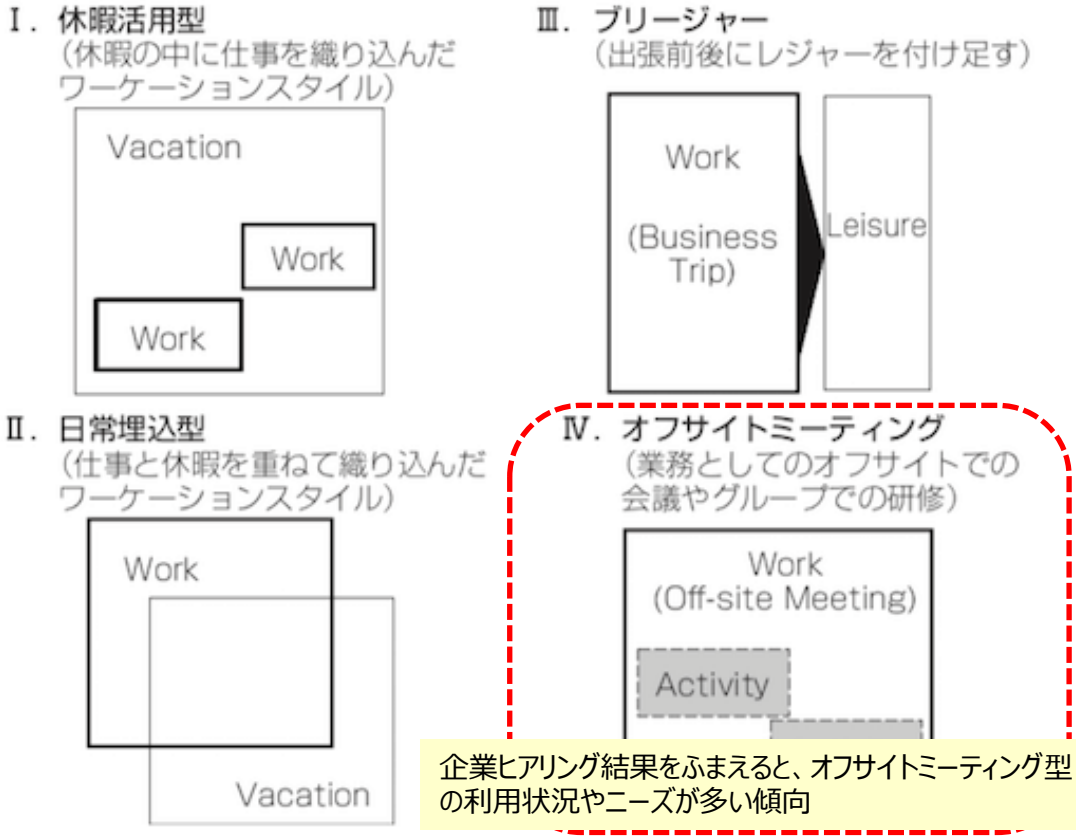
4）ワーケーションの区分（仕事の形態）

【1　休暇活用型】
・休暇中にある一定の時間のみ働くタイプ。企業に属する会社員が、長期の休み中に、旅行先から会議へ出席するといったケースが想定される。

【2　日常埋込型】
・仕事と休暇を重ねて織り込んだワーケーションスタイル。プランナーのような企画職、デザイナーやIT関係の仕事など、仕事とプライベートとの境界が明確でない職種に多く見られる。

【3　ブリージャー】
・出張の前後にレジャーを付け足すタイプ。金曜に出張で土日は家族と出張先で過ごす等のケースが想定される。

【4　オフサイトミーティング】
・会社の会議室とは異なる環境に身を置いて会議を行うタイプ。地方の自然豊かな場所で会議を行うことで、創造的な成果（新規事業開発等）を生み出すケース等が想定される。



企業ヒアリング結果をふまえると、オフサイトミーティング型の利用状況やニーズが多い傾向

※出典：日本型ワーケーションの4つの形態（人事実務2月号『特集・柔軟な働き方のその先へ』山梨大学 教授 田中教執筆の文章より引用）

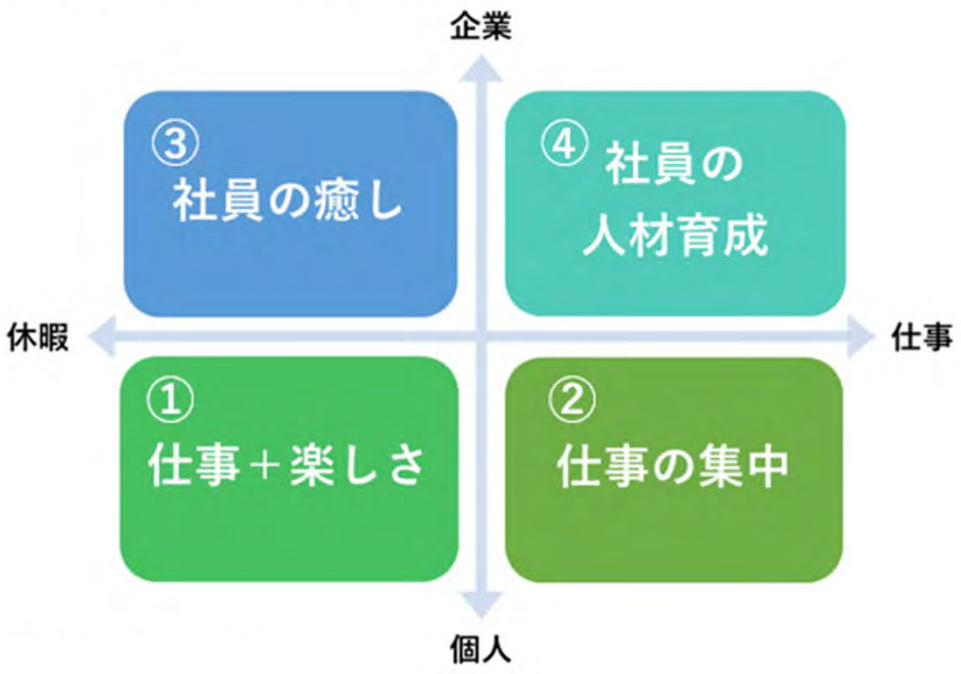
5）ワーケーションの区分（企業、個人それぞれの目的別）

【①個人／仕事＋楽しさ】
・対象は比較的自由に動けるワーカーであり、「旅をしながら働く」等、「フリーランス」や「ノマドワーカー」のようなタイプ。

【②個人／仕事の集中】
・仕事とプライベートを明確に分けず、日常的に仕事のことを考えるタイプ。

【③企業／社員の癒し】
・ワーケーションを企業の視点から「福利厚生」のような形で位置づけているタイプ。社員のリラックスやストレス改善等が目的。

【④企業／社員の人材育成】
・ワーケーションを仕事の延長と捉え、能力開発や仕事環境の向上につなげることが目的。オフィスから離れ、その地域の課題に触れることで学びを深める研修等が想定される。



※出典：竹内義春（妙高ワーケーションセンター　ワーケーションコーディネーター）作成
（NPO法人しごとのみらいを経営しながら、東京のIT企業でも働く複業家）

2. 実験概要

国土交通省
関東地方整備局

（1）実施期間

・実証実験の準備期間、藤野エリアの気候や立地環境等を踏まえ、2021年７～11月の５か月間を想定する。

（2）実施対象エリア

1）実証実験エリア

・藤野地区、相模湖地区、津久井地区の３地区が実験エリアとなる。

出典：相模原市「令和元年版統計書」（一部事務局加工）

2. 実験概要

国土交通省
関東地方整備局

2）主な地域資源の分布状況

凡例	番号	地域	団体・施設名
体験	1	藤野	ふじの森の幼稚園"てって"
体験	2	藤野	里山体験ツアー
体験	3	藤野	藤野里山ランドスケープ
体験	4	藤野	篠原の里
体験	5	藤野	傘松ファーム
体験	6	藤野	藤野の里山のツリーハウスmoss rock山
体験	7	藤野	和田の里体験センター村の家
体験	8	藤野	ふじのアートヴィレッジ
体験	9	藤野	藤野芸術の家
体験	10	藤野	暮らしの手仕事ーくらしてー
体験	11	藤野	廃材エコヴィレッジゆるゆる
体験	12	藤野	藤野電力
体験	13	相模湖	一般社団法人　さがみ湖森・モノづくり研究所
体験	14	津久井	NPO法人里山津久井をまもる会
体験	15	津久井	abio farm
体験	16	津久井	鳥居原ふれあいの館
体験	17	津久井	服部牧場

凡例	番号	地域	団体・施設名
レジャー	18	藤野	神奈川カントリークラブ
レジャー	19	藤野	ふじのマレットゴルフ場
レジャー	20	相模湖	相模湖林間公園
レジャー	21	相模湖	神奈川県立相模湖公園
レジャー	22	相模湖	さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト
レジャー	23	津久井	神奈川県立津久井城山公園
レジャー	24	津久井	津久井又野公園
レジャー	25	津久井	津久井湖ゴルフ倶楽部
レジャー	26	津久井	長竹カントリークラブ
レジャー	27	津久井	早戸川国際マス釣り場
食べる	28	藤野	カフェレストラン shu
食べる	29	藤野	yamato-ya大和家
食べる	30	藤野	藤野倶楽部　百姓の台所
泊まる	31	藤野	おおだ山荘
泊まる	32	藤野	柚子の家
泊まる	33	藤野	桐花園
泊まる	34	藤野	秋山川キャンプ場
泊まる	35	藤野	亀見橋バカンス村
泊まる	36	藤野	日相園キャンプ場
泊まる	37	相模湖	新戸キャンプ場
泊まる	38	相模湖	みの石滝キャンプ場＆相模湖カヌースクール
泊まる	39	相模湖	相模湖休養村キャンプ場
泊まる	40	津久井	緑の休暇村青根キャンプ場
泊まる	41	津久井	青野原オートキャンプ場組合
泊まる	42	津久井	神之川キャンプマス釣り場
泊まる	43	津久井	このまさわキャンプ場
泊まる	44	津久井	此の間沢渓流園
泊まる	45	津久井	うらたんざわ渓流釣場
泊まる	46	津久井	青野原野呂ロッジキャンプ場
その他	47	藤野	ふじの駅前portrade
その他	48	藤野	森のイノベーションラボ FUJINO
その他	49	藤野	藤野やまなみ温泉
その他	50	藤野	ゆずの里ふじの
その他	51	藤野	吉野宿ふじや
その他	52	相模湖	相模湖記念館
その他	53	相模湖	小原の郷
その他	54	相模湖	県立相模湖交流センター
その他	55	津久井	久保田酒造株式会社
その他	56	津久井	津久井湖記念館
その他	57	津久井	尾崎咢堂記念館
その他	58	津久井	いやしの湯

※本地図には、藤野地区・相模湖地区・津久井地区の地域資源のうち、各地区の特徴を体験できると考えられ、かつインターネット等で所在地や活動拠点が確認できたもの、及び、相模原市より頂いた意見をもとに地域資源を掲載している。

出典：国土地理院地図をもとに事務局より作成

（3）実験内容

前回検討会からの変更

区 分	内 容
テレワーク	【対象：ワーカーおよび企業】 ・エリア内において、ワーカーあるいは企業単位でリモートワーク（通常業務）が可能なテレワーク拠点を提供する。 ・利用者のニーズに応じて、周辺の飲食店、宿泊施設、観光コンテンツ等の情報を提供する。
ワーケーション	【対象：ワーカーおよび企業】 ・宿泊型のワーケーションプログラムを提供する。 ・２泊３日から最長２週間程度のプログラムを想定。 ・参加企業等の意向、ニーズを踏まえてプログラム構築の支援、提供を行う。 （利用イメージ①）仕事＋体験プログラム（農体験・アート体験・自然遊び等） （利用イメージ②）企業研修（チームビルディング、新規事業開発等）＋観光
マッチングイベント	【対象：ワーカーおよび企業】 ・都心のワーカーや企業と地域の事業者やアーティストとの交流・マッチング、都心のワーカー・企業同士の交流・マッチング等の機会を提供する。 ・これまで出会わなかった人材同士が一堂に会し、新たなネットワーク構築や事業創出のきっかけをつくる。

3. 実証実験の準備・実施・管理に向けた全体スケジュール

国土交通省
関東地方整備局

	2020（令和2）年度			2021（令和3）年度											備考
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
計画策定	実証実験計画の策定															
募集・受付				専用サイトの構築		周知	専用サイト、SNSによる情報発信									
					都心企業への広報											
							都心企業・ワーカーからの受付、相談、情報提供等									
活用施設の準備（ワーク拠点）	拠点整備、受入体制づくり						ワーク拠点の運営									※相模原市の事業として実施
実施体制の構築				地域への事業周知、協力依頼（住民、宿泊施設、観光事業者、NPO等）			プログラム、イベント等での連携									
				役割分担等の検討												
プログラム及びイベントの検討				プログラム、イベント構築（企画、地域内外との調整、役割分担等）		試行	プログラム、イベントの運営									【プログラム】 ・20社程度を想定 【イベント】 ・全3回程度を想定
						準備										
移動手段の検討				運用方法の検討、整理			レンタカー助成、E-BIKEレンタルの運用									
効果検証					アンケート、ヒアリング調査の準備			アンケート、ヒアリング調査の実施					成果・課題とりまとめ			
検討会	第2回開催（1月28日）	実験準備等に関する意見照会			第３回開催			第４回開催			第５回開催		第６回開催			・四半期に1回程度の開催を想定

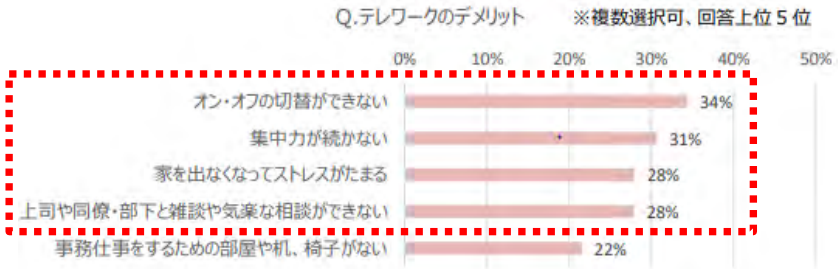
4. 実証実験の内容

国土交通省
関東地方整備局

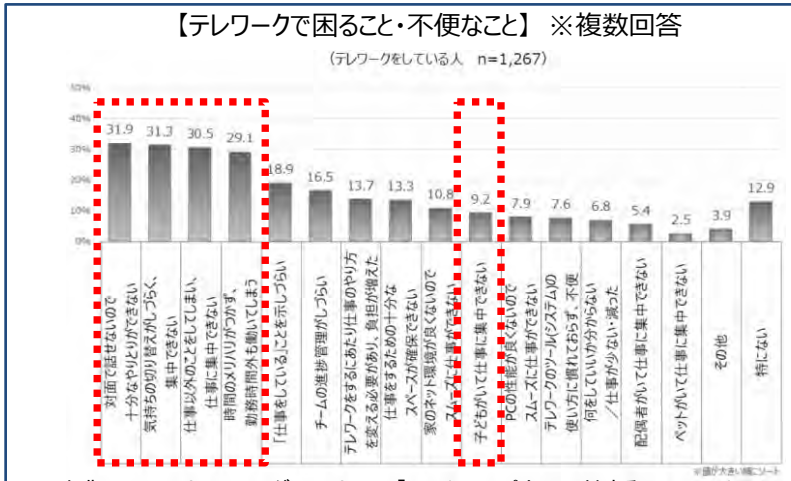
（1）都心企業・ワーカーに対する訴求ポイント

1）テレワークの課題

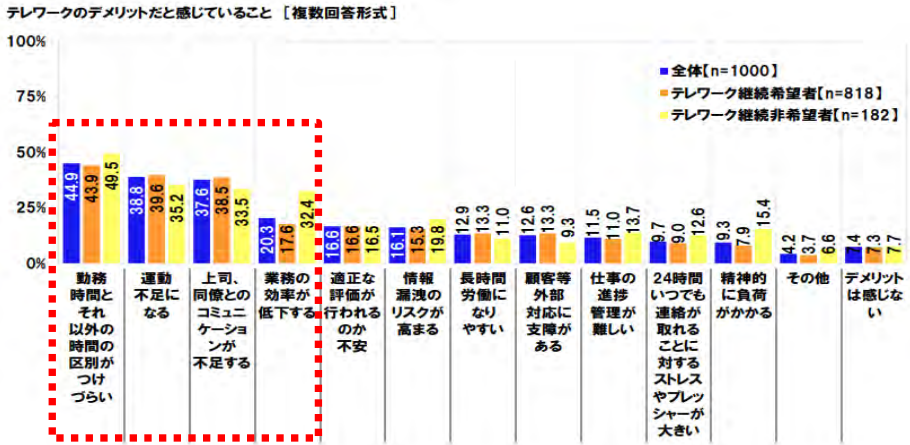
・テレワークの課題として、「集中力の確保、維持」、「業務の生産性向上」、「オン・オフの切り替え」、「ストレスや運動不足の解消」、「社内のコミュニケーション改善」、「テレワーク環境の向上（Wi-Fi環境、家族との関係、子育てとの両立等）」等が挙げられる。



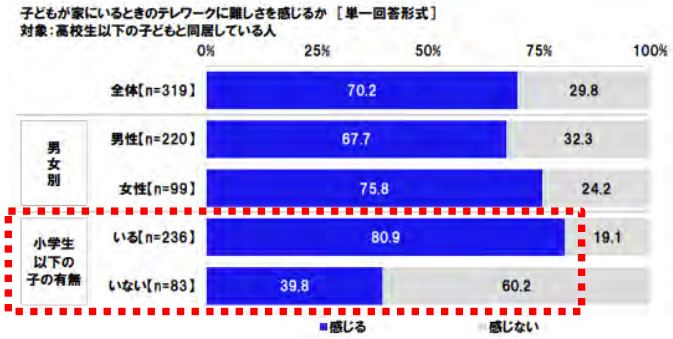
出典：三菱地所株式会社「15,000人就業者アンケート」調査（令和2年7月）
※東京都に勤務する、一都三県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）在住のオフィスワーカーを対象に実施（回答者の80.4%がテレワークを実施）



出典：UXコンサルティング＆リサーチ「アンケートパネルに対するWebアンケート」
※20-59歳男女、有職者（パート・アルバイトを含む）へのアンケート調査



出典：連合（日本労働組合総連合会）「テレワークに関する調査 2020 」（令和2年6月）
※ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする 今年の4月以降にテレワークを行った全国の18歳～65歳（会社員・公務員・団体職員・パート・アルバイト）を対象に実施（1000サンプル）



出典：連合（日本労働組合総連合会）「テレワークに関する調査 2020 」（令和2年6月）
※ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする 今年の4月以降にテレワークを行った全国の18歳～65歳（会社員・公務員・団体職員・パート・アルバイト）を対象に実施（1000サンプル）

2） ３地区の特徴、強み

・特徴、強みについて、下表の通り整理した。
・立地や自然環境に加えて、独自の先進的な活動が展開されている点や豊かな地域コミュニティの存在が大きな強みとして考えられる。

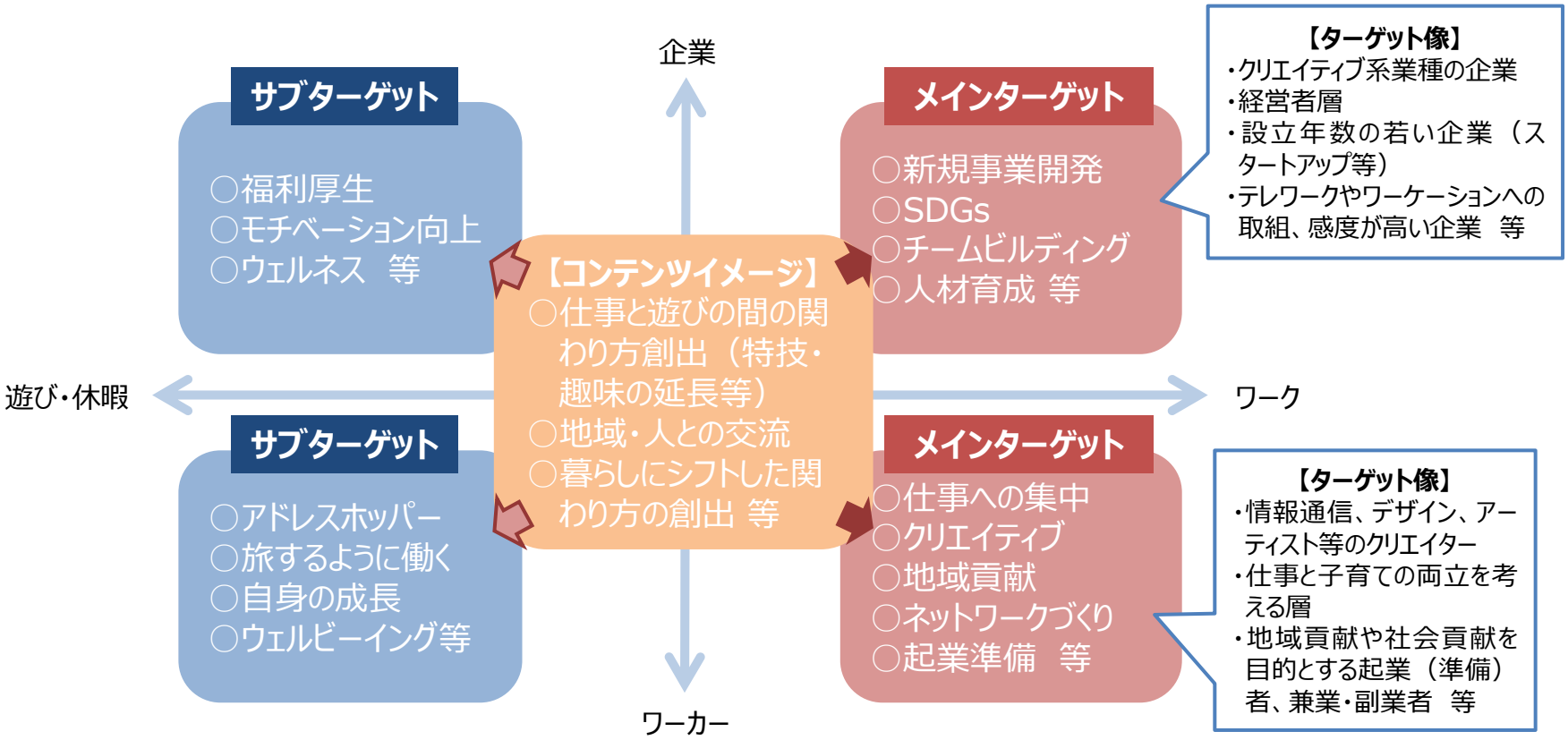
区分	強み・特徴
移動距離・時間	・都心から比較的近い（リニア中央新幹線の開通で約60分のアクセス）。
自然環境	・都心から比較的近い立地でありながら、森林、河川、湖など、多様で豊かな自然環境を有している。
体験コンテンツ	・自然体験や里山体験（森林保全、森林散策、たき火、川遊び、釣り等）、農業体験（野菜の種まき、収穫、果物狩り等）等を提供する体験コンテンツが多数存在し、子どもの遊びや育成の環境としてもポテンシャルが高い。 ・廃材活用や地域の太陽光発電の取組等、中山間地域における持続可能な地域のあり方（SDGs）につながる取組が多い。 ・相模湖地区の「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」等、一般的なファミリー層のキラーコンテンツの存在（藤野利用者のすそ野の拡大）。
アート活動	・藤野を中心に、350名を超えるアーティストやクリエイターが居住し、様々なアート活動が展開されている。 ・藤野芸術の家、ふじのアートヴィレッジ等、アートに関連する施設が複数立地。アートに関わる体験プログラムも多い。
地域コミュニティ	・藤野で生まれ育った方や元藤野町職員の方が取り組まれている活動（里山体験ツアー、森の保全、ほたるの再生、醤油・味噌づくり、地産地消型のレストラン、炭焼き等）も多く、古くから対象地域で暮らす住民による取組が新たな移住者を刺激し、地域全体を盛り上げる雰囲気が醸成されている。 ・移住者の中には、アーティストやIT関連事業者等も多く、地域住民同士の関係性が構築されている。 ・藤野地域通貨「よろづ屋」など、地域住民同士の支え合いの機運、仕組みがある。 ・移住してきた住民の割合も高く、他地域からの受入に対して寛容な風土がある。 ・SDGsに通じるような先進的な地域主体の活動が多数展開されており、今後の企業活動等との親和性も高い。
地域の中間支援的な役割を担う組織の存在	・「藤野地域通貨よろづ屋」、「農業法人 藤野倶楽部」、「藤野電力」等、様々な地域の取組に関わり、藤野地域の活性化に向けた事業を展開している藤野エリアマネジメント。 ・３地区の観光振興に取り組む藤野観光協会・津久井観光協会・相模湖観光協会の存在。

3）都心企業・ワーカーに対する訴求ポイント

都心企業・ワーカーの課題、ニーズ	訴求ポイント
・在宅でのストレス ・運動不足	・都心とは異なる自然豊かな環境（非日常）に身を置くことで、在宅によるストレスから解放される。 ・自然体験、農業体験、アート体験等、様々な体験コンテンツがあり、心身共にリフレッシュできる環境がある（オン・オフの切り替えがやりやすい）。 ・雑音が入らないリラックスできる環境で業務を進めることで、業務への集中、生産性向上が期待できる。 ・自炊ができる宿泊施設やキャンプ場もあり、長期滞在も可能。
・集中力が続かない ・オン・オフの切り替えが難しい ・業務の生産性向上	
・上司や同僚とのコミュニケーション不足 ・チームビルディングの困難さ	・同僚や上司との業務外の共同作業（森林浴、農業体験、BBQ等）を通して、コミュニケーションの活性化、良好な関係性の構築が期待される。
・子育てとの両立が困難	・子どもの興味・関心が高く、成長に資する豊かな自然環境や体験コンテンツが多数あるため、親が仕事に集中している間、子どもは様々なコンテンツに参加する、あるいは、親子でコンテンツに参加する等、仕事と子育ての両立に資する環境をつくることができる。
・企業の人材育成や新規事業開発等を目的とした研修	・社会課題の解決やSDGsに関わるような先進的な地域主体の取組が多く展開されており、今後の新たな企業活動との親和性が高く、連携できる可能性がある。 ・アーティストやクリエイターが多数居住しており、自然環境の保全や環境保護等に関する活動も多いことから、企業の人材育成や新規事業開発等を目的とした研修や取組の受け皿としてのポテンシャルが高い。 ・地域の課題解決や新しい魅力創出に取り組む中間支援的な役割を担う組織が存在しており、企業やワーカーのニーズ等を踏まえて、プログラム提供や事業提案等を行うことができる。
・SDGs、CSV等、持続可能な事業展開への取組	
・職場（都心）との近さ	・品川まで約60分（リニア開通後）の立地であり、短時間で都心へ戻ることが可能。 ・交通手段の選択肢が複数あり、一定のリダンダンシー（多重性）が確保されている。

（２）提供するコンテンツとターゲット像のイメージ

・ターゲットとして、対象地域の特徴・魅力に価値を感じ、地域との関りを重視する企業、ワーカーを想定する。
・仕事と遊びの間のような機会、場（地域との交流や参加者同士の交流、その地域の暮らしの体験、地域課題解決をビジネスにつなげる活動等）を提供することで、企業・ワーカーの「関わりしろ（※p18「参考４」参照）」を広げる。
・企業（新規ビジネス構築、人材育成等）、ワーカー（生産性向上、スキル向上、起業、子育てとの両立、ライフの充実等）、地域（魅力創出、ブランド力向上等）それぞれにメリットが生まれることを重視する。
・コンテンツ提供のプロセスを通じて、藤野地域独自のブランド構築（差別化）にもつなげていくことが重要となる。



【参考１】 ターゲットに関する意見（検討会より）

・ビジネス、国際競争力、イノベーションを念頭に置くと、今までと違うレイヤーをいかに呼び込むか、藤野のファンだけではなく例えば大丸有※1にいるような人たちをどう呼び込むかが重要。
・社歴が浅い企業※2ほどテレワークと親和性が高いので、大丸有よりも五反田や渋谷のベンチャー企業の方が今回の対象としてよいのではないか。
・子育て層にとって、現在予定している実証実験期間がちょうど子どもの夏休み※3にあたる。子どもを一緒に連れてくることが出来て、日中は仕事をしつつ子どもは遊び、夜は集まった社員の家族ぐるみで交流できる※4という新たなドライブになるとよい。
・ターゲットは一つに絞りこむ必要はないが、メインターゲットは設定するとよい。

※1,2：p15、34のターゲット像へ反映
※3,4：仕事と子育ての両立やライフの充実の観点から、p37およびp41へ反映

【参考２】 差別化（ブランド構築）に関する意見（検討会より）

・ワーケーションの実施中に都内のオフィスで何かあった時に、長野県だと東京まで2時間かかるが藤野は1時間でたどり着ける、という固有のメリットを見せることで差別化を図ることが出来るのではないか。
・篠原では人形浄瑠璃の伝承に取り組む団体があり、関わる中ですごいパワーを感じたこともあり、人とのつながりを活かすプログラム※1の充実が大事ではないか。
・藤野町の面積は山手線の内側とほぼ同じサイズで大半が里山であり、そこに新しいライフスタイルを実践する人が点在している※2ことが差別化のポイントではないか。例えば、世田谷区で高級中華を提供していたシェフが、食品ロス削減と農業を一体化させるワーク・ライフスタイルを目指して藤野へ移住している。
・差別化を図る上で、プロセスをレビューすることが重要※3。他地域への展開を図るためには、そのようなプロセスを共有できればよいのではないか。

※1,2：地域や人とのつながりや交流、地域の独自性や先進的な取組等を踏まえて、p34,36,38,39へ反映
※3：実証実験におけるプロセス（プログラム等の積み重ね）が地域の独自性や差別化をつくるという観点から、p15、46へ反映

4. 実証実験の内容

国土交通省
関東地方整備局

【参考３】 ワーケーションプログラム、イベントに関する意見（検討会、プレ実証より）

区分	意見内容
地域との関り、参加者同士の交流	・地域や人とのつながりを活かすプログラムの充実が有効 ・ワーケーションに地域の人と語る時間を必ず組み込む ・地域の人たちと一緒に過ごす（星空観察、まちあるき、村歌舞伎の伝承に関わる活動等） ・ワーカー、地域住民など、誰でも集える場所、機会をつくる ・ワーケーション等の参加者同士や参加者と地域間で交流ができるスポット的なイベントの企画 →地域との関りや交流を通じた、仕事だけでは生まれない人間関係の広がり、サードプレイス的な場の創出
新たなワークスタイル、ライフスタイル	・１～２週間の長期滞在による仕事＋体験プログラムに注目している ・働き方と暮らし方が一体となるような実証ができると良い ・火起こし体験、発電体験など、自給自足生活を疑似体験できるコンテンツをつくる →地域の暮らしに溶け込むような働き方につながるプログラムの創出
新規事業やビジネスの創出	・１～２週間の長期滞在による仕事＋体験プログラムに注目している ・映像関係のロケーションとしても藤野は注目されているため、プログラムの中で、映像関係の動きや事業者を巻き込めると面白い ・ベイマックス（地域の見守り、福祉の関わる課題をロボットやAI等のIT技術で解決する）をつくるまちづくり →都心等の企業、ワーカーとの連携による社会課題の解決につなげるプロジェクト構築の場、機会づくり
地域特性の活用	・火起こし体験、発電体験など、自給自足生活を疑似体験できるコンテンツをつくる ・天候の悪さを逆手にとって楽しむことができるコンテンツ（雨の中の森林浴的な） ・敢えて「寒さ」を体験する（楽しむ）プログラム（空手等の寒稽古後のお汁粉が温かくて美味しかった体験は特別） ・アート体験、山（野菜の収穫、山菜取り）、川（魚釣り等）等、魅力ある点を結ぶ ・キャンプやアウトドア好きなワーカーを対象としたテレワークプランをつくる ・地域通貨の一日体験（利用者が地域でサービス提供や貢献することで地域通貨がもらえる等） →地域特性を活かした多様な田舎体験の場、機会づくり
子育て支援	・実証実験期間に夏休みが含まれるため、子どもを一緒に連れてくることができ、日中は仕事に集中でき（子どもは自然体験等）、夜は家族ぐるみで交流できるといった形が新たなドライブになるとよい ・地域の保育園等と連携し、ワーケーション利用者の子どもを期間限定で受け入れるといった特例が可能か？ ・子どもと大人の遊びや楽しみがそれぞれ独立して楽しむことができる（子どもは地域で面倒見てくれるとか） →子どもと親がそれぞれ楽しむことができるプログラム及び仕組みづくり
withコロナ	・ワーケーションのプログラム等を検討する上で、今後、常にコロナと付き合っていかなければならないという視点が重要。コロナ対策の費用なども考えていかなければならない。 →コロナ対策の考え方、方法についての整理

※仕事と遊びの間の関わり、職場と家以外の拠点づくり等につながる（関りしろが生まれる）プログラムやイベント構築が重要と考えられる

【参考４】「関わりしろ」について

○「関わりしろ」とは、自分たちで地域をよくするために関わっていける、伸びしろがたくさんある地域のことを呼んでいます。

（出典）ソトコト Facebook
https://www.facebook.com/sotokoto/posts/1067957249979754/

○「関わりしろ」とは、誰もが関わりたくなるような余白があることを指します。完成されて取り付く島もないツルツル、ピカピカさではなく、「わたしだったらこうしてみたいな」という内発性と創造性を誘引するザラザラ感。「リノベーションまちづくり」などは「関わりしろ」のいいお手本です。

（出典）上毛新聞「まちの未来と関係人口 「関わりしろ」増やそう／ソトコト 指出編集長
https://www.jomo-news.co.jp/feature/shiten/249563

○地域を良くするために人が関わる余白、伸びしろ

（出典）長野県プレスリリース「地域の課題を「関わりしろ」とした つながり人口創出実証実験を実施します！
https://www.pref.nagano.lg.jp/kamichi/kamichi-kikaku/suishinhi/documents/tsunagaripress.pdf

→都心企業・ワーカーが従来の仕事や暮らしの領域を広げて地域に関わることで、新しい仕事や暮らしが生まれる可能性があるのではないか

→仕事（ワーク）と暮らし（ライフ）の境界が融合している様な状態（ワーク・ライフ・バランスではなく、ワーク・ライフ・ミックス）

→実証実験を通じて、都心の企業やワーカーに対する**「関わりしろ」**をつくることが、新たなワークスタイルやライフスタイルの創出と地域課題の解決の両立につながるのではないか

前回検討会からの変更

（3）募集・受付

1）実証実験に関する広報の考え方

・ターゲット像を踏まえて、以下に示す方法を使い、実証実験の広報を進めていくこととする。
・デジタルリテラシーが比較的高い層がターゲットとなることから、デジタルを活用した広報をメインとして行う。

○低コストで広範囲への拡散が可能、記事になる可能性
①公的機関のプレスリリース（関東地整、相模原市を想定）
②民間サービスのプレスリリース（PR TIMES等を想定）

○新たなビジネススタイル・ライフスタイル、移住・関係人口等に対する関心層へのリーチ
③実証実験の予告、魅力を伝える雑誌広告、雑誌記事の活用（ソトコト等を想定）

○実証実験を伝える基盤となる情報プラットフォーム
④実証実験に関するポータルサイトの構築・運用（実証実験に関する情報発信、問い合わせ窓口等）

○低コストでの拡散が可能、ビジネス面での利用が多い
⑤実証実験の予告、実施状況等を伝えるSNSの活用（Facebookを想定）

○参加企業の獲得、地域の理解促進
⑥実証実験への参加（都心企業）、協力（地域）の働きかけ

4. 実証実験の内容

・広報プロセスについての考え方は、以下の通りである。

時期	考え方、実施概要
開始前	**○複数メディアで幅広く展開し、認知度を高める** ・実験開始1か月前(テレワーク拠点完成)に合わせ、プレスリリース、SNS、雑誌広告等の複数の媒体を活用して広く周知を図る。（6月初旬） **○都心企業への働きかけ** ・ニーズ調査でつながりのある都心の企業等に対して、実証実験に関する情報提供や参加によるインセンティブ等を説明し、参加を促す。（５月～）
実験期間	**○具体イメージ、魅力を共有し、実証実験の魅力を高める** ・事業の趣旨、取組内容、利用者の声等を雑誌記事で発信する。（8～9月） ・合わせて、SNSブログ、動画等でも配信し、具体イメージを共有（7～11月） **○イベントによる集客** ・テレワーク拠点開設に合わせたキックオフイベント、マッチングイベント等により、実証実験への関心を喚起（3回程度／7月、9月、11月を想定）
終了後	**○結果の共有** ・実験結果の概要を発信し、実験の成果を広く共有する。（12～2月）

前回検討会からの変更

（３）募集・受付

２）実証実験に関する広報の手法

①②プレスリリース（関東地整、相模原市、民間サービス）

・実証実験１か月前を目途に、ポータルサイトの開設に合わせて、プレスリリースを活用して広範囲へ情報を拡散する。
・民間サービスを用いて、テレビ局や新聞社等のメディアをはじめ、本実証実験に関わりがあると思われるメディア等に対して幅広くプレスリリースを行う。

③雑誌広告（ネット）、記事の活用

・プレスリリースに合わせて、雑誌広告（ネット）に情報を掲載する（ソトコトなどを想定）。
・また、実証実験期間中にも、対象地域の魅力やワーケーションの実施状況、地域のキーパーソンや利用者（都心企業、ワーカー）の声等を取材してもらい、記事として掲載していただくことも検討する。

④ポータルサイトの構築・運用

・実証実験に関する情報のプラットフォームとしての機能。実証実験に関する総合的な情報発信を目的として、藤野エリア等の環境や立地特性、実証実験の目的や取組内容、ワーク拠点・宿泊施設・観光資源等に関する基本情報、参加企業等の募集・受付等に関する情報の掲載・運用が想定される（トップ画面、実験目的、実証内容、アクセス方法、プログラム及びイベント情報、宿泊情報、観光コンテンツ情報、問い合わせフォーム等を想定）。実証実験１か月前（６月初旬）の開設を目指す。

⑤SNSの活用（Facebook）

・プレスリリースに合わせて、Facebookを活用して情報を発信。また、実験の準備期間も継続して取組状況を発信していくことを想定。
・実証実験期間中も、ワーケーションプログラムの実施状況、マッチングイベントの告知及び結果報告、参加企業・ワーカーの声、対象地域の魅力等を頻度高く情報発信する。

⑥都心企業、地域への働きかけ

・５月ごろをめどに、ニーズ調査結果において、対象地域に対する関心がある企業（ヒアリング調査の実施企業も含む）に対して、情報提供等のPR活動を行い、実証実験への参加を促す。また、地域の関係団体等に対しても、実証実験の周知や協力依頼を行う。

国土交通省
関東地方整備局

（3）募集・受付

前回検討会からの変更

3）広報のプロセス

○複数メディアで幅広く展開
・実験開始1か月前(テレワーク拠点完成)に合わせた一斉告知(6月初旬)
○都心企業への働きかけ
・企業営業の実施(5月～)

○具体イメージ、魅力を共有
・事業の趣旨、取組内容、利用者の声等を雑誌記事で発信(8～9月)
・合わせて、SNSブログ、動画等でも配信し、具体イメージを共有(7～11月)

○イベントによる集客
・テレワーク拠点開設に合わせたキックオフイベント、マッチングイベント等により、実証実験への関心を喚起(3回程度／7月、9月、11月を想定)

○結果の共有
・実験結果の概要を発信し、実験の成果を広く展開(12～2月)

R3.4～6月	7～9月	10～12月	R4.1～3月

①プレスリリース（関東地整、相模原市）
○リリース内容検討(4～5月) → ○リリース公開

②プレスリリース（民間サービス）※PR TIMES等(https://prtimes.jp/)
○リリース内容検討(4～5月) → ○リリース公開

③雑誌への掲載　※ソトコト等を想定
○掲載広告(ネット)の検討(4～5月) → ○実験予告掲載 → ○掲載記事の調整(6～7月) → ○9月号への掲載

④ポータルサイト
○サイト構築(4～5月) → ○サイト公開 → ○サイト運営(7～11月)
※Googleフォーム等による参加申込受付
※情報更新、新規コンテンツの追加 等
→ ○実証実験結果の掲載(12～1月)

⑤SNS ※Facebookを想定
○ページ検討(4～5月) → ○サイトと同時公開 → ○ページ運営(7～11月)
※日々の利用状況、マッチングイベント告知、対象エリアのコンテンツ紹介等
※簡単な動画を撮影し、アップしていくことも考えられる

⑥企業、地域への働きかけ
○藤野等への関心がある企業への営業活動(5～9月)　※実証実験への参加企業の獲得
○地域住民や官益団体への情報提供(4～7月)　※地域の理解促進

４）その他広報に関わるアイデア

①テレワーク拠点の整備状況を発信

・６月末完成予定のテレワーク拠点に関して、リノベーションが進む状況、施設名称の決定、プレ使用の状況等、完成までのプロセスをSNS等で発信していくことで、地域内外に対して、テレワーク拠点の認知度を高めることが期待できる。

②テレワーク拠点への関心・愛着の醸成

・家庭や地域で不要となった家具や廃材等を持ち寄り、地域内外から参加者を集めてDIYワークショップ等を行いながら、ワーク拠点で使用する家具や設備の製作を行うことを通じて、テレワーク拠点への関心・愛着が増す（利用率増への寄与）とともに、地域内外の交流促進にもつながることが期待される。

③地域の人材、資源を発信

・対象地域独自の魅力と考えられる人の魅力や活動の魅力をSNS等で発信していくことで、対象地域に対する魅力を高めることが期待できる。具体例としては、自然遊びや里山体験を提供する「藤野里山体験ツアー運営協議会」や「里山津久井を守る会」、有機農園を営む「abio farm」、地域の間伐材で積み木や家具を製作する「さがみ湖 森・モノづくり研究所」、地元食材を活かした創作料理を提供する「農園 土とシェフ」等が挙げられる。

④関係者によるプレ実証実験の発信

・実証実験の準備の一環として、コーディネーター、事務局等の関係者によるワーケーションプログラムの小規模な体験を行い、実施内容や実施前後の変化等をSNS等で発信することで、ワーケーションの具体的なイメージを伝えることができる。

5）募集・受付対応

前回検討会からの変更

・募集・受付は、ワンストップ窓口を設置して対応する。対応パターンは以下のとおり。

①ワーク拠点を利用する場合・・・ワーク拠点に事前に申し込むことで利用が可能
（宿泊する場合は別途予約）

①情報提供
・利用者の問合せに応じて、ワーク拠点の利用方法、空き状況、宿泊施設等の情報を提供。

②申込み
・利用者はワーク拠点に、利用申込みを行う。
・宿泊の場合、別途宿泊予約も行う。

③利用
・利用者はワーク拠点を訪れ、利用。
・観光等も各自で自由に行う。

④フォローアップ
・利用後の意向把握。

②ワーケーション、企業研修として利用する場合・・・事前にプログラムや工程づくりをサポート

①問い合わせ
・情報提供とともに、利用者のワーケーションや企業研修等に関するニーズや利用したい施設等を把握。

②相談対応
・利用者のニーズに合わせて、行程づくり、ワーク拠点や宿泊施設の確保等をサポート。

③利用
・プログラムに応じて、利用者が自由に利用するケースと、運営側で行程をサポートするケースが想定される。

④フォローアップ
・利用後の意向把握。

前回検討会からの変更

（４）活用施設の準備

１）ワーク拠点

・相模原市において、2021年6月末の整備が予定されている「森のイノベーションラボFUJINO（愛称：森ラボ）」の活用。
・2021年7月ごろからの実証運営を予定（※今後のSMR検討を踏まえて継続的に検討する）。

①拠点概要

・名称：森のイノベーションラボFUJINO（愛称：森ラボ）
・所在地：相模原市緑区小渕2012（藤野駅より徒歩３分）
・建物概要：1992年２月竣工／３階建／延床面積約300㎡
（１階:駐輪場、２・３階:会議室 それぞれ約１３０㎡）
・都心まで約60分、駅近接の立地

②実証運営者

・民間事業者等

③利用方法

・シェアオフィス、コワーキングスペースとしての利用を予定。

④整備上の留意点

・安定した高速通信環境及び情報セキュリティの充実
・静かなワーク環境づくり（オンラインミーティング等が可能なブースの整備等）
・感染症対策、災害時の対応等の検討　等

（出典）地理院地図（電子国土Web）を加工

4. 実証実験の内容

国土交通省
関東地方整備局

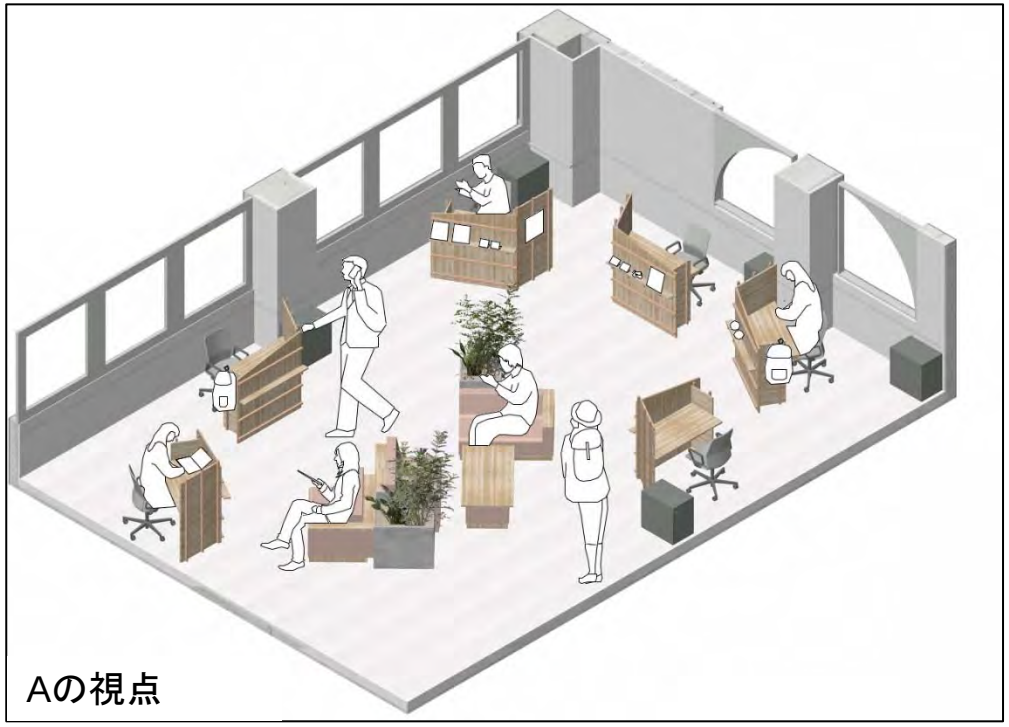
前回検討会からの変更

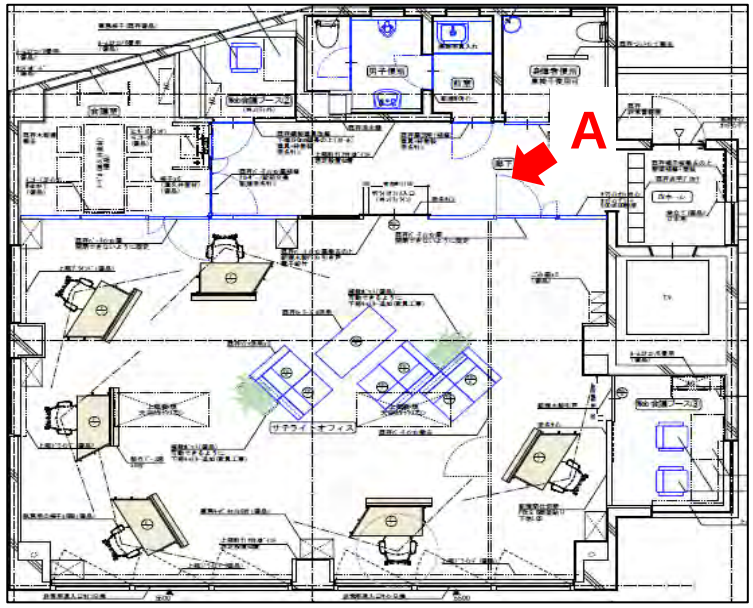
⑤設備、使用機材等の準備

・ワーク拠点に必要な設備、使用機材として、以下が想定される。
電源（コンセント）増設／空調設備／高速通信環境（Wi-Fi）／プロジェクター／スクリーン／ウェブカメラ／モニター／PC周辺機器／ワークデスク／イス／ホワイトボード　等

⑥平面図（現時点のイメージ）

・３Ｆ（サテライトオフィス）





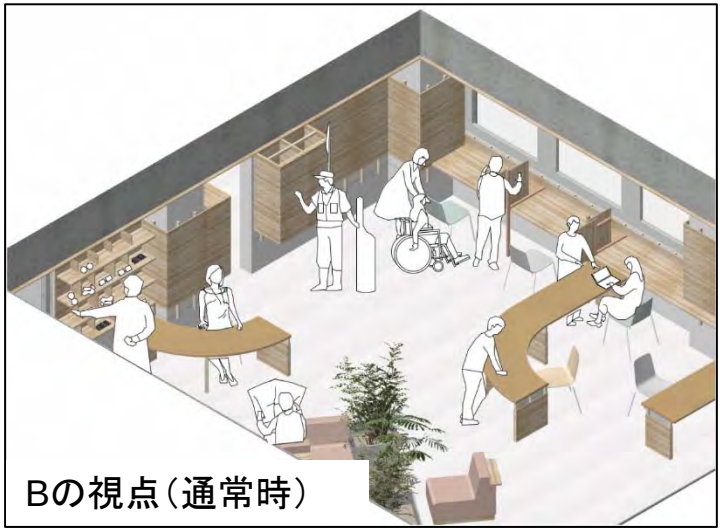
4. 実証実験の内容

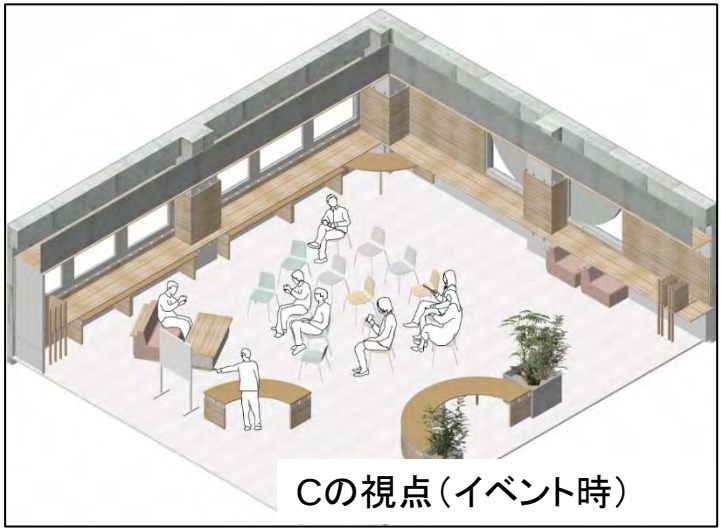
国土交通省
関東地方整備局

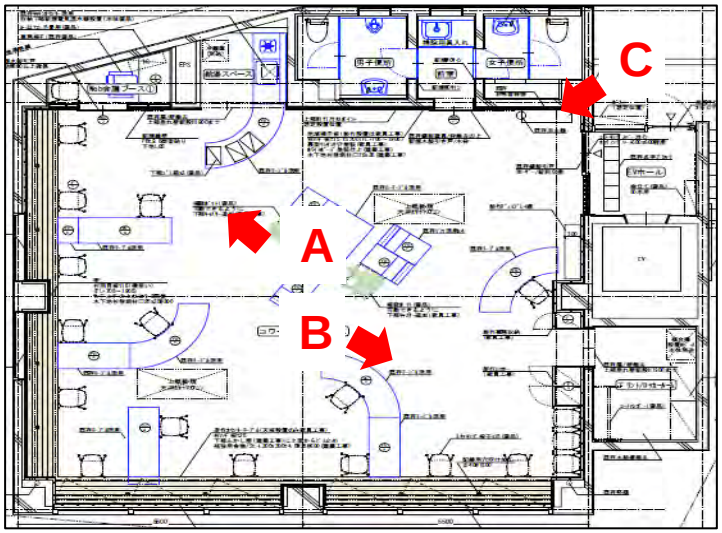
前回検討会からの変更

⑥平面図（現時点のイメージ）

・２Ｆ：コワーキングスペース







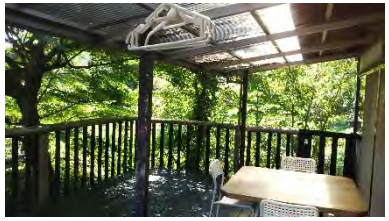
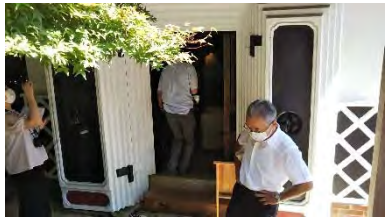
前回検討会からの変更

2）宿泊施設

・実証実験での利用が想定される主な宿泊施設について以下に示す。
・各施設のWi-Fi環境を確認し、実証実験参加者に周知する。

①柚子の家（相模原市緑区牧野4611-1）
・築150～180年の古民家をフルリノベーションした建物で、自然豊かな山間の雰囲気を楽しみながら過ごすことができる。
・最大30名程度の利用が可能。
・アメニティ・設備：無料駐車場／Wi-Fi／キッチン／浴室／ドライヤー／エアコン 等

②おおだ山荘（相模原市緑区日連1411）
・森林に囲まれた場所にあり、相模湖湖畔へは森林浴をしながら５分ほどの距離に位置する。
・築120年の古民家を、歴史ある佇まいはそのままにリノベーションしている。
・最大25名の利用が可能。
・アメニティ・設備：無料駐車場／Wi-Fi／キッチン／浴室／ドライヤー／エアコン 等

4. 実証実験の内容

国土交通省
関東地方整備局

③藤野芸術の家（相模原市緑区牧野4819）

・100人ほど宿泊できる宿泊施設には、洋室、和室のほかに1F、2Fに分かれたメゾネットタイプもあり、すべてのお部屋にはバルコニーが付いている。また、工房、キャンプ場、レストラン、会議室、スタジオ、ホールが併設されている。

④陣渓園（陣馬の湯）（相模原市藤野町吉野1848）

・庭には清流が流れ、鳥のさえずりや木々の香りに囲まれた自然豊かな環境の中にある。
・アットホームな雰囲気の旅館で、四季折々の山菜料理や猪鍋なども。全9室。

⑤日相園（相模原市緑区日連754）

・藤野駅から近い相模湖に佇む宿で、9つのコテージからなる。
・BBQが楽しめるほか、バス釣り用のボートレンタルも行っている。

⑥里楽巣FUJINO（相模原市緑区牧野4611-1）

・日比谷花壇が運営するグランピング施設。
・日中は雄大な山の景色、夜は空にきらめく満点の星空など豊かな自然に囲まれている。
・洋室と和室の２タイプが用意されている。

3）観光資源

・実証実験での利用が想定される主な観光資源について以下に示す。

①藤野里山体験

・藤野地区において、里山の暮らしやライフスタイルを楽しく体験できる。
・里山に暮らす人とともに里山の暮らしを体験したり、食事を作る、お話をする、といった交流を通じて里山の魅力や楽しさを体感する。
・大人（中学生以上）：4,500円／幼児・小学生：2,500円、3歳以下：無料

②ふじのアートヴィレッジ（相模原市緑区牧野5570）

・無料藤野を拠点として活躍するアーティストやクラフト作家などがコンテナギャラリーに作品を展示・販売している。作家とのコミュニケーション、ものづくりの実演やワークショップなども楽しめるアート市場。原則として、土・日・祝日のみ開館。

③藤野芸術の家（相模原市緑区牧野4819）

・豊かな自然の中に立地、陶芸や木工、ガラス工芸等の芸術体験が気軽に楽しめる。スタジオやホールもあり音楽、劇、ダンス等の日帰り練習や合宿にも適している。宿泊室やキャンプ場、レストランもあり、いろいろな楽しみ方が可能。火曜日休館。

国土交通省
関東地方整備局

前回検討会からの変更

（５）実施体制の構築

１）関係者の役割分担

・実証実験の円滑かつ効果的な実施に向けて、関係者間で適切に役割分担を行い、連携を図りながら推進できる実施体制を構築する。
・検討会が実証実験全体の推進に関するブレイン的な役割を果たし、検討会での検討、協議結果を踏まえながら、コーディネーターを中心に、地域の関係主体と連携して体験コンテンツ等を提供する。

検討会
実証実験全体の推進（準備、広報、プログラムやイベント提供、効果検証等）に関わる検討、助言を担う

実証実験の進め方、検証等に関する検討、助言

進捗、結果のフィードバック

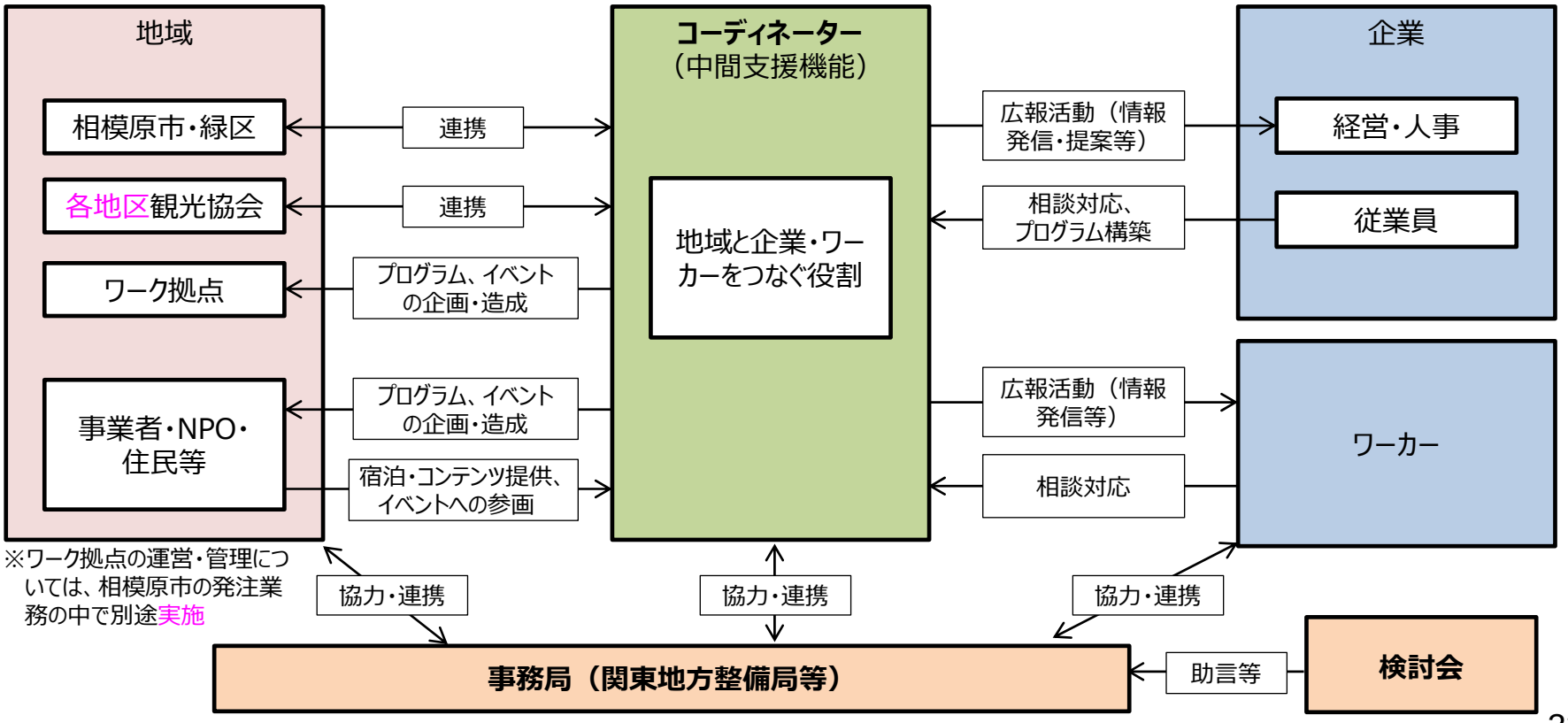
実施体制	役割
相模原市、緑区役所（政策課、緑区役所区政策課、広域行政課、観光シティプロモーション課、産業・雇用政策課、産業支援課）	・実証実験に向けて必要となる情報提供（ワーク拠点として活用可能な施設、宿泊施設、観光資源等） ・実証実験に関する情報発信（記者発表等） ・実証実験エリアにおける関係者の調整 ・実証実験への参加を希望する企業の掘り起こし（相模原市内）等
コーディネーター	・都心の企業・ワーカーに対する広報、集客活動 ・ワーケーション、企業研修等のニーズに合わせたプログラム構築および当日の運営をサポート ・マッチングイベントに関する企画・運営サポート、地元参加者や登壇者の調整　等
ワーク拠点運営者	・ワーク拠点の管理・運営 ・利用者への情報提供（観光資源、飲食店、宿泊施設等）、問合せ対応、ワーク拠点の予約管理、備品の貸し出し　等
宿泊施設、キャンプ場等の事業者	・ワーケーション利用等における宿泊施設等の運営
住民、アーティスト、地元事業者、NPO等	・体験プログラムの受け入れ ・マッチングイベントへの参加　等
有識者	・実証実験計画の推進に関する助言　等
関東地方整備局	・事業全体の推進、管理

国土交通省
関東地方整備局

前回検討会からの変更

2）コーディネーターに求められる役割

・実証実験では、都心の企業・ワーカーと地域をつなぐ中間支援的な役割を担うコーディネーターの役割が極めて重要。
・都心の企業・ワーカーの満足度を高める一方で、地域にとっても成果のある取組とする考え方、スタンスが求められる。
・単発利用に留まらず、再訪や複数にわたり地域への訪問を促進する仕組みが必要であり、自治体や地元事業者等との調整・連携、ターゲットを想定した魅力あるプログラムやイベントの構築、利用顧客の確保（集客）等、事業業全体のスキームを構築する役割も担うことが重要となる。
・また、自走化へ向けて、知見やノウハウを蓄積しつつ、地域主体の事業へ育成を図っていくことが求められる。



３）コーディネーターの主な業務イメージ

大項目	小項目	具体内容（現時点の想定であり、状況に応じて変更等の可能性あり）
ワーケーションプログラム	①プログラムの企画・造成	・ワーケーションに参加する企業用にワーケーションプログラムを作成（３～５パターン程度） ・プログラムに協力する地元関係者（宿泊施設、観光コンテンツ等）、地域外関係者との調整
	②相談対応	・ワーケーションに関する相談対応（随時） ・専用サイト（問い合わせ窓口）の対応 ※月10社程度の問い合わせ・相談を想定 ※月３～５社の受付を想定
	③プログラムの運営	・必要に応じて、参加企業への同行（ルート＆タイム管理、地域のガイド、地域とのコーディネート等） ※月２～３社の同行を想定
マッチングイベント	①イベントの企画	・都心の企業・ワーカーと地域との交流、マッチング等を目的としたイベントを用意（3回程度を想定） ・イベントに協力する地元関係者、地域外関係者との調整（テーマ、日程、役割分担等）
	②相談対応	・イベントに関する問い合わせ、相談対応（随時） ・専用サイト（問い合わせ窓口）の対応
	③イベントの運営	・会場確保、準備 ・イベントの進行（進行、登壇、タイム管理等） ※10～20名の参加を想定
情報発信	①ウェブサイトの構築	・実証実験用のウェブサイトの構築（トップ画面、実験の目的、実施内容、アクセス方法、プログラム及びイベント情報、宿泊情報、観光コンテンツ情報、問い合わせフォーム等を想定） ※6月初旬には構築完了している必要あり ※実証実験終了後は閉鎖を想定
	②ウェブサイトの運用	・情報更新（随時） ・問い合わせフォームの対応
	③情報発信	・雑誌広告（ネット）、雑誌記事の掲載（実験開始時、実施中） ・SNSによる配信（１週間に１～４回程度の発信を想定）

４）地域の体制に関する留意事項

①地域の受入体制の構築

・実証実験後の継続的な取組や地域の自走化へとつなげていくためには、地域の主体的な関りが重要となる。
・実証実験を通して、エリア内における関係主体間の関係づくりを進めながら、エリアとして将来的に目指すビジョンや取組内容、役割分担等について合意形成を図り、地域の主体性を醸成していくことが求められる。
・そのため、実証実験においては、地域主体の取組としての自走化の可能性を踏まえ、コーディネーターを中心として、地域内の関係者間の調整や都市部とのマッチングを担う人材（団体）の確保等について検討、調整を行う必要がある。

②取組の核となる地域の人材、団体の掘り起こし

・都心との効果的なマッチングにつなげるために効果的な地域の受入体制を構築するためには、上記に加えて、エリア内におけるワーク拠点や宿泊施設、観光資源等の掘り起こしを行うとともに、取組の核となり得る人材（団体）の掘り起こしも行うことが重要となる（①と同時期に実施）。
・当該エリアにおいては、農体験や里山体験、アート活動、自然環境保全、伝統・文化の継承等に取り組む人材や団体、都心からの移住者や多拠点居住の実践者等が想定される。

（６）プログラム、イベントの検討

・（１）で整理したターゲット像を踏まえて、利用者（ワーカー、企業）、受入地域の双方にとってメリットがあるもので、時間と場所に縛られない新たなワークスタイルやライフスタイルの創出、都市と地方の対流促進につながることに留意する。

１）企業・ワーカー・地域それぞれに期待されるメリット

企業	・ワーケーション等を活用した新規事業開発、チームビルディング、SDGsに関する取組 ・多様な働き方による優秀な人材の確保、育成　等
ワーカー	・普段とは異なる環境での生産性向上やクリエイティブなアイデア・着想の獲得 ・地域貢献や社会貢献への関わり、新たなネットワーク構築　等
受入地域	・関係人口の拡大による地域資源の活性化、経済循環 ・新たな産業、雇用等の創出

２）想定されるターゲット像

①企業のターゲット像

・情報通信、デザイン、金融・不動産等、クリエイティブ系、テレワークによる業務が可能な業種
・設立年数が若い企業（スタートアップ等）
・テレワークやワーケーションへの取組熟度、感度が高い企業　等

②ワーカーのターゲット像

・情報通信、デザイン、アーティスト等のデジタル人材、クリエイティブ人材
・地域貢献や社会貢献を目的とする起業（準備）者、兼業・副業者
・アドレスホッパー　等

3）プログラム、イベントを通じた関係性の継続

・都市と地方の対流促進の観点から、ワーケーション単発で関係性が途切れることなく、その後も企業・ワーカーと地域との関係性が継続・発展していく仕掛けが重要となる。

【継続の例】

【プレ交流】
・受入地域の人材も交えて、具体的なプログラム内容についての意見交換。
・地域の様子やキーマンと話すことができるオンライン視察、地域の特産品を事前送付の上でオンライン飲み会の開催等が想定される。

＜オンライン＞

【ワーケーション】
・受入地域に身を置いて、暮らしに溶け込みながらワーケーションを体験。
・地域との交流を重視（地域との交流会、地域課題解決に向けたディスカッション、共同提案等）。
・実践型研修や実証フィールドでは、地域へ向けた発表会や実証実験等も想定される。

＜リアル＞

【関係性の継続へ】
・ワーケーション体験後のフォローアップとしてアンケートを実施（合わせて、地域の特産品をお土産として送ることも考えられる）。
・終了後の情報提供やその後の様子を伝えるニュースレターの送付等により、オンライン再会や再訪へつなげる。

＜終了後＞

前回検討会からの変更

4）ワーケーションプログラム

①プログラムのテーマ区分

・プログラムのテーマや実施期間に応じて、プログラムイメージを整理した。
・地域との関りや交流を核とし、仕事と遊びの間の活動、職場や家以外の拠点づくり、仕事以外の人間関係の広がり等、「関わりしろ」の拡充につながるプログラム構築が重要。
・以下に示すようなプログラムをモデルとして、企業のニーズや地域の状況に応じてカスタマイズし、提供する。

主要テーマ	概要
ｉ）地域の特性を活かした独自の体験	○プログラム概要 ・普段とは異なる環境で仕事に集中する時間をもつとともに、地域の独自の資源を活かしたコンテンツを体験することを通して、企業のチームビルディングや新規事業開発、ワーカーの生産性やクリエイティビティの向上、モチベーション向上新等につなげるプログラム ○利用期間 ・１泊２日～３泊４日 ○プログラム例 ・里山体験（山菜取りや魚釣り）とアート体験が一緒にできる ・火起こし体験、発電体験など、自給自足生活を疑似体験できる ・雨の中の森林浴、極寒体験等、天候や立地環境の欠点を活かしたプログラム ・キャンプやアウトドア要素を組み込んだプログラム　等

4）ワーケーションプログラム

①プログラムのテーマ区分

主要テーマ	概要
ⅱ）新しい事業やビジネスの創出	○プログラム概要 ・地域の先進的な活動等を受け皿として、地域の魅力創出や課題解決に実践的に取り組むプログラムを通して、企業のマーケティングや新しい事業開発、ワーカーの兼業・副業、起業等に資するプログラム ○利用期間 ・１～２週間 ○プログラム例 ・都心の企業やワーカーが自身のノウハウや技術を活かして地域の課題解決に取り組む実践型の研修 ・子どもや高齢者の見守り等、地域福祉に関わる課題をロボットやAI等のIT技術で解決するまちづくり ・都心の企業やワーカーと地域の人材の連携による映像制作ワークショップ ・地域の先進的な取組（地域通貨等）をベースとした都心企業の新規商品・サービスの実証実験　等
ⅲ）子どもや家族とともに過ごす	○プログラム概要 ・子どもと一緒でも仕事に集中できる環境や仕組みが用意されている、子どもと一緒に楽しむことができる（あるいは、子どもと親でコンテンツが独立している）コンテンツがある等、子どもや家族とストレスなく仕事とプライベートの充実を図ることができるプログラム ○利用期間 ・１泊２日～３泊４日 ○プログラム例 ・子どもは里山体験（山菜取りや魚釣り）、親はアート体験に分かれて参加できる ・火起こし体験、発電体験など、子どもと一緒に楽しむことができる ・キャンプやアウトドア要素を組み込んだプログラム ・仕事をしたい時間帯に子どもは別のプログラムに参加する等、仕事に集中できる仕組み　等

②体験コンテンツの提供団体、施設

・ワーケーションプログラムにおいて想定される体験コンテンツを提供する内容及び主な実施団体や施設について、以下の通り整理する。
・実施にあたっては、参加企業のニーズ等を踏まえて、コーディネーターが内容や参加人数、日程等について各実施団体や施設と調整を行い準備を進める。

コンテンツ（例示）	概要	実施団体、施設（例）
里山体験、農業体験	・畑仕事（野菜の種まき、収穫等）、自然遊び（川遊び、釣り、森の散策等）、果物狩り等の体験 ・森林保全に関わる間伐作業等の体験	○藤野里山体験ツアー運営協議会(藤) ○トランジション藤野・森部(藤) ○NPO法人篠原の里(藤) ○ふじの森のようちえん「てって」(藤) ○NPO法人里山津久井を守る会(津) ○abio farm(津) ○一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所(相)
ナイトハイク、星空観察	・夜の生き物観察（ホタル観察等）、星空観察等を通じた田舎の夜体験	○土屋商店(藤) ○NPO法人篠原の里(藤)
発電体験	・小型の太陽光発電システムを組み立てるワークショップ等を通じて、自然再生エネルギーの必要性や仕組みを学ぶ体験	○藤野電力(藤)
アート体験	・陶芸、木工クラフト等の体験 ・アクセサリーづくりワークショップ　等	○藤野芸術の家(藤) ○ふじのアートヴィレッジ(藤)
DIY、リノベーション体験	・廃材や資材の再利用等を活用し、家具を作る、家を建てる等のDIY、リノベーション体験	○廃材エコヴィレッジゆるゆる(藤)
フードロス、地産地消	・地元の食材を使ったコース料理体験 ・そばを自分でつくり、食べる体験	○農園 土とシェフ(藤) ○相模湖そば作り友の会(相)
観光、レジャー	・桜や紅葉狩り ・ボート遊び、釣り	○津久井湖城山公園(津) ○神奈川県立相模湖公園(相)
新たなプロジェクトづくり	・地域の課題解決や魅力創出につながる新たなプロジェクトをつくり実践していくプログラム ・都心企業・ワーカーと地域が交流・連携しながら、様々な地域課題に取り組む	○一般社団法人藤野エリアマネジメント(藤) ○株式会社SHIN-JIGEN(藤)

※下線は、子どもや親子での参加が可能なプログラムを提供している団体、施設
※(藤)：藤野地区、(相)：相模湖地区、(津)：津久井地区

③モデルプログラムの例

ｉ）地域の特性を活かした独自の体験

・企業単位で、普段とは異なる環境に身を置き、創造的な仕事に集中して取り組んだり、チームで将来の事業や組織等について話し合う。また、農体験やアート体験等の体験プログラムや地域との交流等を通じて、新しいアイデアや発想につなげる。

スケジュール	内容
１日目	9:30 オリエンテーション 10:00 ワークタイム 12:00 ランチ 13:00 森林散策、農業体験またはアート体験 15:00 ミーディング（チームビルディング） 17:00 夕食準備（火起こし体験） 18:00 夕食（地域住民、アーティスト等とBBQ）
２日目	7:30 農業体験（野菜収穫） 8:30 収穫した野菜で朝食 9:30 ワークタイム 12:00 ランチ 13:00 ワークタイム 15:00 里山体験 18:00 夕食（地域の飲食店） 19:00 ナイトハイク、星空観察
３日目	8:00 朝食準備（収穫した野菜等で） 9:00 朝食 10:00 ワーケーションのふりかえり 12:00 ランチ 13:00 解散

③モデルプログラムの例

ⅱ）新しい事業やビジネスの創出

・企業単位で、地域の課題解決や魅力創出につながるプロジェクトを提案するような実践型の企業研修等が想定される。
・企業にとっての新規事業開発、地域にとっての課題解決等、双方にメリットが生まれるようなプログラムとする。
・長期の関わりを見据えて、オンラインとリアルの組み合わせで実施することも考えられる。

＜藤野エリアで新しいビジネスを創出することをテーマとしたプログラム例＞

スケジュール	内容
第１～２回／オンライン （各３時間程度）	○顔合わせ、自己紹介、アイスブレイク ○藤野エリアの魅力、課題等に関する情報提供、質疑応答 ○藤野エリアの魅力、課題の抽出 ○新しいビジネスの方向性の検討 ○成果発表 ○専門家等による助言
第３回／リアル （３泊～１週間程度）	○現地視察 ○地域の主要施設やキーマンに対する取材、情報収集 ○新たなビジネスの方向性、内容の見直し ○地域住民や事業者等との意見交換 ○ビジネスモデルのプロトタイプづくり ○プロトタイプの発表、意見交換
第４回／オンライン （３時間程度）	○プロトタイプの検証方法の検討（実証実験等） ○企業と地域の役割分担の調整 ○スケジューリング、実験準備
第５回／リアル （実験内容に応じて）	○実証実験の実施 ○結果の検証 ○ふりかえり、今後の検討

③モデルプログラムの例

ⅲ）子どもや家族とともに過ごす

・子どもと一緒に楽しむことができるプログラムや、親と子どもそれぞれにコンテンツが用意されているプログラム等、子育て層の新たなワークスタイルやライフスタイルに関わるプログラムを提供する。

スケジュール	内容（親）	内容（子ども）
1日目	9:30 オリエンテーション 10:00 ワークタイム 12:00 ランチ 13:00 ミーティング（チームビルディング） 15:30 子どもと合流、夕食準備（火起こし体験） 17:00 夕食（地域住民、アーティスト等とBBQ）	9:30 里山体験 15:30 終了 17:00 夕食
2日目	7:30 農業体験（野菜収穫） 8:30 収穫した野菜で朝食 9:30 ワークタイム 12:00 ランチ 13:00 ワークタイム 15:30 子どもと合流、自由時間 18:00 夕食（地域の飲食店） 19:00 ナイトハイク、星空観察	7:30 一緒に野菜収穫 8:30 朝食 9:30 里山体験 15:30 終了 18:00 夕食 19:00 ナイトハイク、星空観察
3日目	8:00 朝食準備（収穫した野菜等で） 9:00 朝食 10:00 ワーケーションのふりかえり 12:00 ランチ 13:00 解散	8:00 朝食準備 9:00 朝食 10:00 自然散策、虫取り 12:00 ランチ 13:00 解散

前回検討会からの変更

5）マッチングイベント

①イベントのテーマ区分

・プログラム構築の考え方に準じて、地域との関りや交流を重視し、参加者にとっての「関わりしろ」の拡充につながるイベント構築が重要。
・以下に示す区分により、企業のニーズや地域の状況に応じてカスタマイズし、企画・運営を予定。

ｉ）キックオフイベント　※相模原市テレワーク拠点「森ラボ」にて７月開催で調整中

【目的】
①実証実験の目的、内容の周知
②SMRに関する理解、期待感の醸成
③中間駅周辺における都心との対流促進に向けた実験への期待

【テーマ設定】
○ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新しいワークスタイル・ライフスタイルの実現
○社内コミュニケーションを活性化する新しい働き方としてのワーケーション
○中山間地域との「関りしろ」と企業の人材育成

【開催形式】
○対面＋web形式（YouTubeの関東地方整備局広報チャンネルにて動画を公開予定）

【主な対象者】
○本実証実験のターゲットである都心企業等

【参加人数】
○会場20名程度＋web参加

【プログラムイメージ】
※次頁を参照

前回検討会からの変更

5）マッチングイベント

【キックオフイベントのプログラムイメージ】

項目	内容
企業等によるワーケーション実証実験　実施	・企業等のニーズに応じてプログラムを構築 ・実験エリアのプログラム体験、地域との交流を組み込む ・イベントでの対談準備 ※ワーケーション実証実験の一貫として実施。ヒアリング実施企業への依頼を想定
キックオフイベント	○開会挨拶（関東地整）【５分】 ○実証実験の説明（関東地整）【１０分】 ○SMRにより実現される新たなワークスタイル関係をテーマとした講演（国土計画に知見のある専門家を想定）【20分】 ○関係人口創出、新たな働き方・暮らし方等をテーマとした講演（関係人口に知見のある専門家を想定）【20分】 ○実証実験参加企業と実証実験のコーディネーターによる対談【30分～60分】 ※コーディネーターが、ワーケーションの感想、地域の魅力・課題、業務への影響等を質問し、藤野の魅力を交えながら対談を行う（参加者とのブレストも含む）。 ○結果の共有

5）マッチングイベント

①イベントのテーマ区分

ⅱ）マッチングイベント（都心企業×地域）※9～11月の間で2回程度を想定

・都心企業と地域（住民、地域事業者、NPO、アーティスト等）との交流機会の創出、あるいは、都心企業同士の情報共有や意見交換の機会創出が考えられる。
・新しいネットワークづくりや事業創出等のきっかけをつくる。
・企業ニーズと地域ニーズの双方に合致したプログラムとすることが重要。
・参加のすそ野拡大、コロナ対応等の観点から、リアルとオンラインの両方の参加を組み合わせる等によりプログラムを構築することも考えられる。
・継続性や発展性の観点から、単発ではなく、連続性を持ったプログラム構築も考えられる。

【イベントイメージ：都心企業と地域のマッチングによる新たなプロジェクトづくり】

時間	内容
15:00	開会（目的、スケジュール説明、アイスブレイク）
15:30	ゲストスピーチ（３～5名） ・都心企業・ワーカーや地元事業者等によるプロジェクト提案
16:30	ブレスト ・ゲストスピーカーごとにグループをつくり、プロジェクトを実現するための意見交換を行い、今後の方向性や新しいアイデア、アクション等を出し合う
17:30	ブレスト結果の共有とふりかえり
18:30	懇親会（BBQ等）
20:30	終了

（７）移動手段の検討

前回検討会からの変更

１）移動に関するインセンティブ（助成）について

①インセンティブの上限

○ 実証実験参加者１名当たり、上限3千円まで助成する（公共交通、レンタカー及びE-BIKE併用可）。

②公共交通※1のインセンティブの対象

○ 出発地からの往復運賃及び藤野・相模湖・津久井地区を公共交通を使って移動する場合の運賃を対象とする。

③レンタカー、カーシェアリングのインセンティブの対象

○ 藤野・相模湖・津久井地区をレンタカーを使って移動する場合（ただし、相模原市内（橋本駅想定）又は八王子駅発着※2の場合に限る。）、レンタカー費用の半額を対象とする。

④E-BIKEのインセンティブの対象

○ 藤野・相模湖・津久井地区をE-BIKEを使って周遊する場合、レンタル費用の半額を対象とする。

⑤インセンティブ利用の条件

○ 実証実験検証の観点から、企業・ワーカーとして実験へ参加し、効果検証への協力（アンケート及びヒアリングへの回答）をしていただくことを条件とする。

※１：公共交通とは、鉄道、路線バス、デマンド交通及び乗合タクシーとする。
※２：リニア中間駅を想定した実証実験のため、相模原市内（橋本駅想定）又は八王子駅発着の場合に限るとした。

前回検討会からの変更

2）E-BIKEの導入について

①E-BIKEの概要

○充電式によるバッテリー内蔵型の自転車で、通常の自転車と比較して、坂道での走行の負荷が大きく軽減される。

○ワーク拠点、あるいは宿泊施設等へ配置することにより、周辺のサイクリングや近距離移動の観光利用等が想定され、移動利便性の向上が期待できる。

○利用に際しては、事前に実証実験エリアの道路事情（道幅が狭い等）に関するリスクについて、参加企業、ワーカーに周知する必要がある。

タイプ	街乗り	MTB	普段使い
レンタル料	6,000円／日　19,000円／月	9,000円／日　30,000円／月	6,000円／日　15,000円／月
走行距離	60～90km（充電4.5h）	95～140km（充電4.0h）	45～80km
重さ	19.6kg	20.9kg	19.7kg

※藤野エリアで利用する場合、配送料が別途15,000～20,000円ほど必要
※参考URL　https://cycletrip.jp/ja/

【利用者の声】

自転車でキャンプツーリングを楽しむも、1日の移動距離が短く、また坂道も大変なため、どうにかならないか悩んでいた。E-バイクは荷物をたくさん積載しても難なく山道を登ることができ、移動距離も伸びた。（30代男性）

妻と私の体力差から、お互いサイクリングを楽しめずに悩んでいた。実は妻用に一台E-バイクを持っており、乗り換えてから体力差の悩みが解消、出かける機会が多くなった。今では、山では私が置いて行かれるようになり、私も購入を検討し始めた。（60代男性）

※参考URL（株式会社あさひHP）
https://www.cb-asahi.co.jp/lp/contents/campaign/e-sportsbike/

国土交通省
関東地方整備局

前回検討会からの変更

（8）効果検証

・効果検証：中間駅周辺（相模原市緑区藤野地区ほか）における新たなビジネススタイル・ライフスタイルの具体化に関する検証（成果・課題及び改善方策の把握）。
・実証実験の検証方法：企業・ワーカー及び受入地域を対象にアンケート及びヒアリングの実施。
・その他：実証実験のプロセス（準備、広報、プログラムやイベント運営等）について整理し、効果的な進め方等について検討。

【アンケート、ヒアリングにおいて把握する項目】

企業

○実験参加までのプロセス(知ったきっかけ)

○利用状況（実施時期、日数等）

○インセンティブの活用・評価について

○プログラム等の評価（5段階評価と理由等）
・申込過程について
・期待したこと（実施前後の変化）
・ワーケーション実施にあたっての不安(実施前後の変化)
・総合的な満足度、理由
・推奨度、理由
・ワーケーションに対する意向について
・感想・要望　等

○リニア中央新幹線開業後の（仮称）神奈川県駅周辺地域に対する関心について

○基礎情報(所在地、業種、利用目的等)

ワーカー

○利用状況（実施時期、交通手段等）

○プログラム等の評価（5段階評価と理由等）
・宿泊先、ワーク拠点、体験コンテンツ等
・期待したこと（実施前後の変化）
・ワーケーション実施にあたっての不安(実施前後の変化)
・総合的な満足度、理由
・推奨度、理由
・ワーケーションに対する意向について
・感想・要望　等

○リニア中央新幹線開業後の（仮称）神奈川県駅周辺地域に対する関心について

○基礎情報(居住地、勤務地、年代等)

受入地域

対象：宿泊事業者、体験コンテンツ提供者等

○実施状況(受入時期、受入人数、準備したこと　等)

○評価（5段階評価と理由等）
・期待したこと（実施前後の変化）
・ワーケーション受入にあたっての不安(実施前後の変化)
・総合的な満足度、理由
・ワーケーション等受け入れ意向について
・今後新たに取り組みたいこと
・感想・要望　等

○基礎情報(提供コンテンツ、規模等)

※コーディネーターについては、ヒアリングと左記の企業・ワーカーアンケート結果と合わせて分析を想定

※逗子市「ON/OFFiceZUSHI」の利用者アンケートも参考に作成

（９）検討会の流れ

・実証実験の進捗確認、実施内容の見直し、効果の検証等を行うことを目的とした検討会のプロセスについて以下に示す。

【検討プロセス、議事内容】

検討会	議事内容
意見照会 （３～４月）	○実証実験の具体的な進め方に関する意見照会 ・実証実験の進め方、準備、広報等の具体的な進め方に関する意見照会
第３回 （５～６月）	○実証実験の準備、広報に関する報告と意見交換 ・実証実験の進め方に関する報告と意見交換 ・各取組（募集・受付の進め方、実施体制、プログラム・マッチングイベントの企画内容、移動手段、効果検証の方法）に関する状況報告と意見交換
第４回 （８～９月）	○実証実験の実施状況の確認、見直しの検討 ・各取組の実施状況（企業の利用状況、運営上の課題、得られた知見等）の報告、課題を踏まえた見直し等の検討 （検討会終了後、参加企業と検討会メンバーの交流機会を持つことも考えられる）
第５回 （10～11月）	○実証実験の実施状況の確認、とりまとめに向けた検討 ・各取組の実施状況（企業の利用状況、運営上の課題、得られた知見等）の報告、取りまとめに向けた検討 ・効果検証の方法について ・今後の展開に関するとりまとめについて（他の中間駅への展開等）①
第６回 （１～２月）	○実証実験の効果検証結果と今後の展開に関する検討 ・実証実験の効果検証の結果報告と考察 ・今後の展開に関するとりまとめについて（他の中間駅への展開等）② ・ロードマップ（骨子）について